

事務局長

ミウラ トモコ

三浦 朋子



散歩するように本を読もうか

私はSF・ファンタジー系が好きなのですが、このジャンルは好き嫌いがあるので、そこは外して、自分が最近読んで面白かった本を紹介します。では、コミック形式の本から。「大家さんと僕」は、大家さん（超上品おばあさま）と僕（下宿人で売れない芸人）の日常を描いています。二人の交流と大家さんのキャラクター、脱力な絵が魅力です。「うつヌケ」は、鬱病の方の体験談ですが、絵の効果で素直に心に入ってくるので、保健大生にお勧めだと思います。次は、海外が舞台の本です。「天国でまた会おう」はフランスの小説で、第一次世界大戦を軸に、戦争の恐ろしさ、人間の醜さ、家族の複雑な愛情などを描いており、人物描写とストーリーの面白さで一気に読んでしまいました。「開かせていただき光栄です」は、日本人女性による、18世紀のロンドンを舞台にしたミステリー。解剖という特殊な素材を織り込みつつ、時代の雰囲気を感じさせるところが魅力です。最後の「上海フリータクシー」は、外国人記者による現代中国のルポルタージュ。作者は「話してくれたら運賃タダ」のタクシーを運転し、乗客たちの話を聞くことで、今の中国の暮らしや社会の現実を明らかにしていきます。

以上、雑多な紹介でしたが、学生の皆さんが散歩でもするように、紹介した本を楽しんでくれたらうれしいです。



『大家さんと僕』

矢部太郎

新潮社

726.1||Y11||1



『うつヌケ:うつトンネルを
抜けた人たち』

田中圭一

KADOKAWA

916||Ta84





『天国でまた会おう』
ピエール・ルメートル
平岡敦訳
早川書房
953.7||L54



『開かせていただき
光栄です』
皆川博子
早川書房
913.6||Mi36



『上海フリータクシー:野望と幻想を乗
せて走る「新中国」の旅』
フランク・ラングフィット
園部哲訳
白水社
302.22||L25

